



福島県飯舘村へ届けられた応援メッセージ アジアの子どもたちの想いをつなぐ「復興こいのぼり」

はじめに

未曾有の自然災害に襲われた日本。そのニュースは AEFA が支援しているアジアの山奥の学校にも届けられました。想像を絶するあまりにも悲惨な映像に子どもたちも心を痛め、日本の子どもたちのことを心配しています。「日本のみなさんは大丈夫ですか?」「子ども達は学校に行くことができますか?」「私たちにできることはわずかですが、日本のために募金をしました」そんなお見舞いの言葉を幾度となく聞きました。日々の暮らしでさえ大変な思いをしている子どもたちが、同じアジアに住む仲間として一生懸命日本の子どもたちのことを想い、その気持ちに寄り添おうとしてくれています。アジアの子どもたちの想いをなんとか日本に届けたい。子どもの成長を願う「こいのぼり」にアジアの子どもたちが心をこめて日本への応援メッセージを書いてくれました。その動きはアジアの子どもたちだけでなく、ともにアジアの学校と交流を推進している日本の学校にも広まりました。たくさんの子どもの想いをつなげたこいのぼり。このこいのぼりに寄せた想いが被災地の子どもたちを少しでも勇気づけ励ますことができれば…、応援メッセージを寄せてくれた誰もがそう願っています。

福島県飯舘村とのつながり

このたびの福島第一原子力発電所の事故により計画的避難区域に指定され、全村避難が進んでいる福島県相馬郡飯舘村。「ふるさと納税制度」などの支援により、ラオス人民民主共和国サラワン県ラオガム郡ドンニャイ中学校建設及び交流事業を AEFA と共に推進しています。(尚、ドンニャイ小学校は 2007 年度日本財団の支援により建設。) 小学校は順調に児童数が増加し、現在は 240 名を越えています。小学校の旧校舎を中学校として使用することで中学校が立ち上がり、近隣の村からの生徒受け入れが進み、現在中学生 280 名は、今にも壊れそうな竹の校舎で元気に勉強しています。飯舘村支援の中学校は、現在 80%完成、2011 年 9 月の新年度には新校舎で新たなスタートを切る予定です。



元小学校旧校舎で学ぶ中学生



建設が進む中学校新校舎

その一方で、飯舘村の子どもはふるさとを離れ、隣町（福島県伊達郡川俣町）の中学校を間借りして学んでいます。この状況を知ったラオスはもとよりベトナムの AEFA 交流校、そして日本の交流校からも多くのお見舞いや励ましが寄せられました。子どもたちの健やかな成長を願う「こいのぼり」に寄せ書きされたこれら応援メッセージ。去る 5 月 26 日（木）、福島県教育委員会遠藤俊博教育長に贈呈されると共に、飯舘村立草野・飯樋・白石小学校児童に紹介されました。

こいのぼりに応援メッセージを寄せ書きした学校は以下の通りです。

- * ベトナム チャビン省ティウカン郡フートューC 小学校 (2009 年建設校)
- * ベトナム チャビン省ティウカン郡タンホア A 小学校 (2008 年建設校)
- * ベトナム チャビン省ティウカン郡フーカン B 小学校 (2006 年建設校)
- * ラオス サラワン県ラオガム郡カニョンケクナイ小学校 (2011 年建設校)
- * ラオス サラワン県ラオガム郡ノトウム小学校 (2008 年建設校)
- * ラオス サラワン県ラオガム郡ピアラー小学校 (2010 年建設校)
- * ラオス サラワン県サラワン郡ナトウム小学校 (2009 年建設校)
- * ラオス サラワン県サラワン郡ポンタン小学校 (2009 年建設校)
- * ラオス サラワン県ラオガム郡ドンニャイ小・中学校 (小/2007 年 中/2010 年建設)
- * 日本 東京都武蔵村山市立第十小学校 (ワンコイン・スクールプロジェクト協力校)
- * 日本 東京都武蔵村山市立第八小学校 (ワンコイン・スクールプロジェクト協力校)

この他にも、日本財団笹川陽平会長、「アジアの子供たちに学校をつくる議員の会」安倍晋三会長（元内閣総理大臣）、遠藤利明会長代行（元文部科学副大臣）、鴨下一郎衆議院議員（元環境大臣）、岸信夫参議院議員、中山恭子参議院議員（元内閣総理大臣補佐官）、山谷えり子衆議院議員（元内閣総理大臣補佐官）他が、子どもたちへ激励のメッセージを寄せました。

1. ベトナム、ラオス、日本の友だちからのメッセージが綴られたこいのぼり

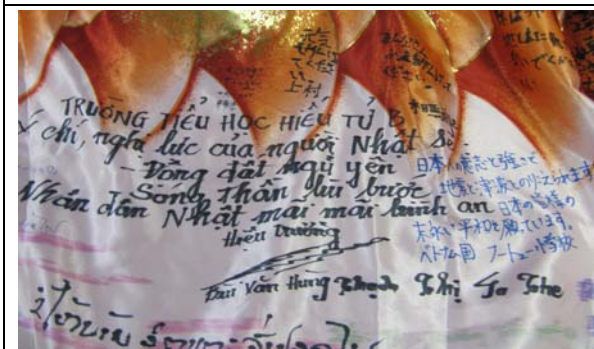
	
<p>ベトナム フーカンB小学校 日本が早く復興できますように。 私たちはいつも皆様の近くにいます。</p>	<p>ベトナム フートューC 小学校(議員の会支援校) 日本人の意志と強さで地震と津波を乗り越えられますように 皆様の平和をお祈りします</p>
	
<p>ラオス ドンニャイ中学校(飯館村支援校)</p>	<p>ラオス ノトウム小学校(日本財団支援校)</p>



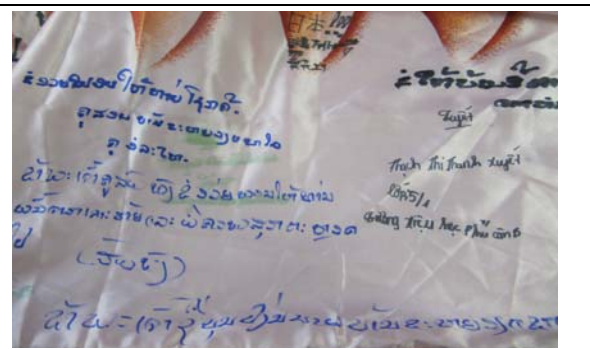
武蔵村山市立第十小学校
希望と夢をいつも心に太陽のように輝いて



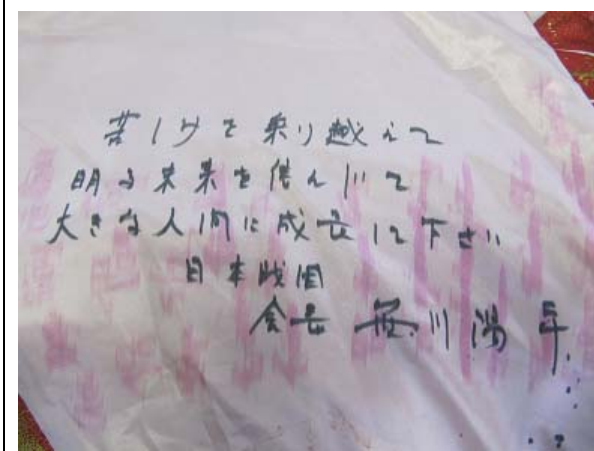
ラオス カニョンケクナイ小学校
村人全員、皆様の幸運をお祈りしています



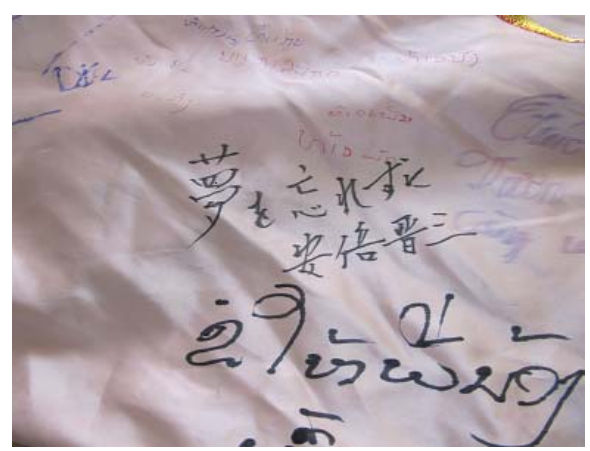
ベトナムからのメッセージ



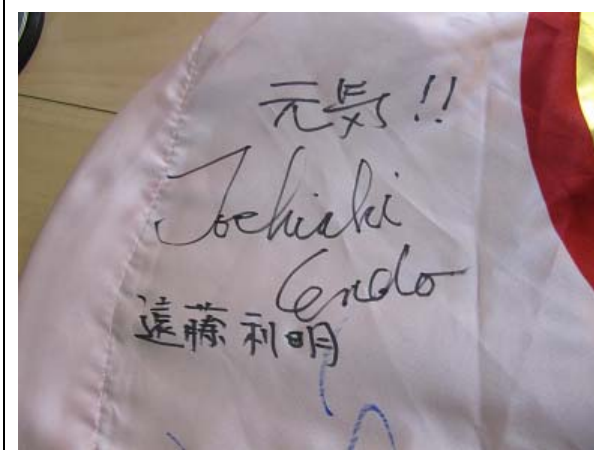
ラオスからのメッセージ



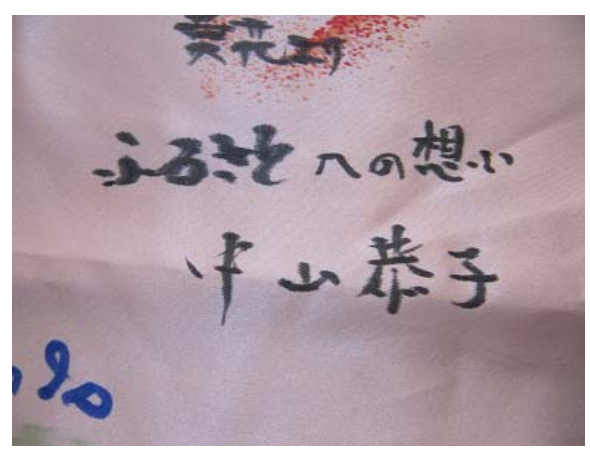
笹川陽平会長 日本財団
(2007年度ラオス・ドンニヤイ小ご支援)



安倍晋三会長 議員の会
(2009年度 ベトナム・フートユーC 小ご支援)



遠藤利明会長代行 議員の会



中山恭子元内閣総理大臣補佐官 議員の会

2. 5月26日 福島県と飯館村の児童に届けられました

武蔵村山市教委の持田浩志教育長、5月に現地を視察、アジアの子どもたちの想いを伝えるべく武蔵村山市立第十小榊尚信校長、第八小牧一彦校長らが福島県庁を訪問、遠藤俊博教育長に贈呈しました。



福島県庁にて、遠藤教育長に贈呈



ベトナムの子どもがお小遣いを寄附

＜フートゥー小学校からの手紙抜粋＞

2011年4月に、私達の校長先生は、日本の児童を助けるために募金するよう、呼び掛けました。
 たくさんのベトナムの子どもたちが、お小遣いからお金を募金しました。
 募金するお金がなかった人は、とても悲しくなり、落ち込みました。
 1年生の何人かは、500ベトナムドン(日本円で約2円)を募金しました。
 みんな日本のために募金することができて、幸せに思いました。
 私たちは この金額がそれほど多くないのを知っています。
 でも、私たちの思いが日本のみなさん、そして子どもたちに届くことを祈っています。



「元気ですよ〜！」と応える飯館の子どもたち



榊校長(武蔵村山市立第十小)より
 「ともに生きよう！」のメッセージ



牧校長(第八小)「ラオスやベトナムの子供たちの気持ちを、伝えにきました」



東館小のオリジナルこいのぼり
 「心ひとつに」



応援メッセージに触れたり、声に出して読む子どもたちと、広瀬要人飯館村教育長



東館小児童の写真を手
「会ったことはまだないけど、友だちだよ」

同じくラオスの少数民族の学校と交流している福島県矢祭町東館小学校宋戸仙助校長は、5-6年生の児童が名前とメッセージを書き込んだオリジナルのこいのぼりを贈呈しました。「ラオスとの交流をしている同じ仲間として、「心をついに」して励ましたい。日本よりもまだまだ恵まれないラオスやベトナムの子ども達が、福島と、飯館の子を応援している。その気持ちを、届けたい。」

お礼の言葉 児童代表 白石小学校 6年 高橋 柊くん

僕たちの飯館村は、豊かな自然があり、美味しい食べ物があり、心優しい人でいっぱい自慢できる村です。その大好きな村から離れて生活しなくてはならなくなってしまったこと、友達が次々に転校していることがとても悲しいです。

でも、この川俣中学校の校舎をお借りして、みんなで勉強をがんばっているところです。

今日は、東館小学校・武蔵村山市立第八小学校・第十小学校のみなさんが、僕たちのために遠くから応援をしにきてくださいました。

みなさんは、ラオスのこども達に対して、すばらしい取り組みをされていると聞きしました。僕たちもラオスの友だちのことをいろいろ学習し始めたところです。まだまだ知らないことが多いですが、みなさんから教えていただきながら、今僕たちができることから進めていきたいと思ひます。よろしくお祈ひします。

僕たちも、今日応援していただいたことを心に刻み、これからもどんな事にも負けないで力いっぱい頑張っていきたいと思ひます。

今日は本当にありがとうございました。

おわりに

こいのぼりにこめられたアジアの子どもたちからの熱い想ひ—AEFAとしては今回その想ひを福島のみなさんに届けることができ、そして飯館村の子どもたちの笑顔を見ることができホッとしている。しかしその想ひを十分に伝えられたのかという不安と、一部の地域にとどまらず、もっと広く被災地の子ども達にこの熱い想ひを伝えていきたいという気持ちも強い。

このこいのぼりを手にして喜び、アジアのお友だちからの気持ちにこたえてくれた日本の子どもたちの気持ちと元気を、今後何らかのかたちでアジアの子どもたちにお返ししたいと思ひている。

理事長 谷川 洋

